

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第6号 水稻

発行日 平成26年 8月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

刈り取り始めの目安となる日（出穂後、日平均気温の積算温度が950℃に到達する日）は平年より5日程度早まると予想されます。※8/26現在

収穫時期は日没が早まりますので、余裕のある作業計画で、適期に収穫しましょう。

- コンバインや乾燥調製施設の点検、整備は早めに行いましょう。
- 完全落水は出穂後30～35日後としましょう。（品質低下の防止）
- 刈取適期の判定は黄化率で80～90%を目安に、適期に収穫しましょう。
- 冠水や倒伏により穂に泥が付着すると、調製時に玄米表面を汚す等、外観品質を損なう恐れがあります。作業機をこまめに清掃し、品質低下を防ぎましょう。
- 籾の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分15%以下に仕上げましょう。

1 生育状況

県全体の出穂期は8月3日と平年より4日早くなっています（表1）。好天で経過したことから出穂・開花は良好であり、登熟も順調に進んでいます。

表1 水稻の地帯別出穂時期 各農業改良普及センター調べ

農業地帯	出穂時期(月/日)								
	本年			平年			平年差(日)		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	7/30	8/4	8/7	8/3	8/7	8/11	-4	-3	-4
北上川下流	7/31	8/3	8/6	8/4	8/7	8/11	-4	-4	-5
東 部	8/2	8/4	8/8	8/5	8/8	8/12	-3	-4	-4
北 部	8/1	8/3	8/6	8/4	8/7	8/11	-3	-4	-5
県全体	7/31	8/3	8/6	8/4	8/7	8/11	-4	-4	-5

注) 1 平年値は平成16年～25年の10か年平均値

2 始期、盛期、終期は各々地帯で概ね10%、50%、90%の水田で出穂した日

2 気象経過

8月第3半旬以降、気温は概ね平年より高く経過しています（図1）。

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台8月21日発表）では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

期間の前半は、湿った東寄りの風の影響を受けやすく、気温は平年並か低い見込みです。

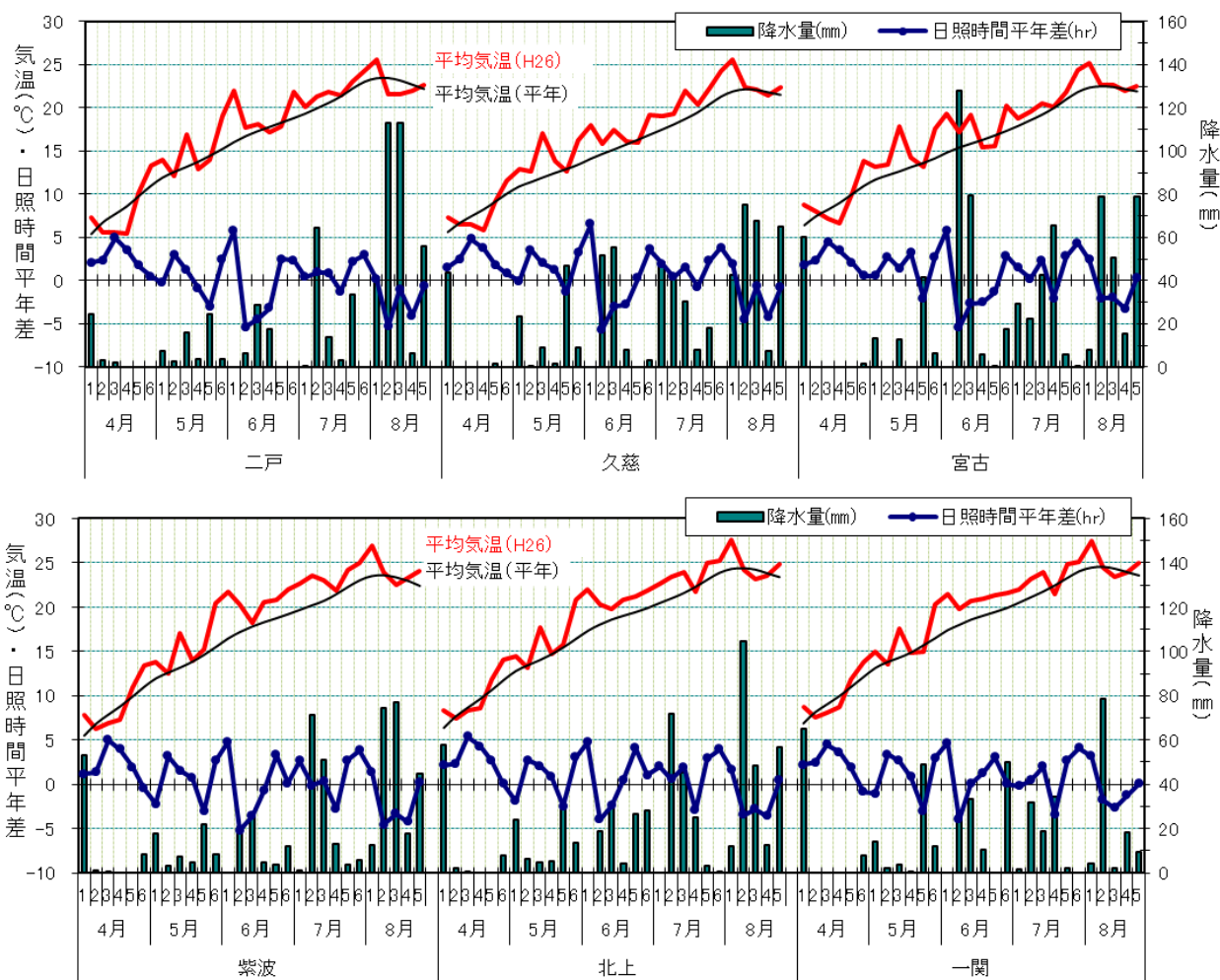


図1 半月別気象経過図（4月第1半月～8月第5半月）
（上段；二戸・久慈・宮古 下段；紫波・北上・一関）

3 登熟を低下させない水管理

登熟期間の水管理は食味、品質及び収量に大きく影響します。根の活力を維持するため間断かんがいをを行い、田面が湿っている程度の水分を保つような水管理を行ってください。

落水が早すぎると収量や品質の低下につながります。以下を目安に落水しましょう。

- ◆ 排水が悪く地下水位が高い水田・・・出穂30～35日頃
- ◆ 排水のよい水田・・・・・・・・・・・・・・出穂35～40日頃

*台風、大雨等で浸冠水の恐れがあるときは、水尻を開けて排水を促します。浸冠水した場合は、葉先を早く出すことが重要ですので、速やかな排水に努めます。

4 適期刈取りの励行

適期刈取りは高品質生産のために重要です。黄化粃割合80～90%に達したら刈取りを行ってください。今年も新米の安全性を確認するための放射性物質調査を全県で実施します。カントリーエレベーター、ライスセンターをご利用の方は施設の稼働時期を確認のうえ刈取り計画をたてましょう。

◆刈取適期の予測

刈取適期は出穂期からの日平均気温の積算による方法で予測します。品種ごとに刈取適期の目安となる積算気温が定められています（表2）。

本年の各地域での刈取り始めの目安となる日（出穂後、日平均気温の積算温度が950℃に到達する日）は平年より5日程度早まると予測されます。

コンバイン、乾燥調製施設の清掃、点検整備は早めに行い、刈取り準備を進めましょう。

表2 主要品種の積算気温による刈取り適期の目安

品種名	刈り取り適期の積算気温
ひとめぼれ	900～1,050℃
どんびしゃり	950～1,050℃
あきたこまち	950～1,100℃
かけはし	950～1,050℃
いわてっこ	950～1,050℃
ササニシキ	1000～1,150℃
ヒメノモチ	950～1,050℃
もち美人	950～1,050℃

表3 各地域の出穂期と日平均積算気温950℃到達日の予測

農 業 地 域	出穂期						刈り始めの目安 出穂期～日平均気温積算温度950℃到達日(月/日)						使用 アメダス ポイント
	本年			平年			出穂始期～		出穂盛期～		出穂終期～		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
花 巻	8/1	8/4	8/8	8/4	8/7	8/11	9/11	9/15	9/16	9/19	9/21	9/25	花巻
北 上	8/1	8/5	8/9	8/5	8/9	8/12	9/11	9/17	9/17	9/22	9/22	9/26	北上
遠 野	7/31	8/3	8/7	8/3	8/6	8/9	9/13	9/17	9/17	9/21	9/23	9/25	遠野
西 和 賀	8/2	8/5	8/9	8/4	8/8	8/12	9/16	9/19	9/21	9/25	9/26	10/1	湯田
盛 岡	8/1	8/5	8/8	8/4	8/8	8/12	9/14	9/18	9/20	9/24	9/25	9/30	雫石
紫 波	7/28	8/3	8/7	8/2	8/5	8/10	9/7	9/15	9/15	9/19	9/21	9/26	紫波
八 幡 平	7/29	8/3	8/6	8/2	8/6	8/10	9/11	9/16	9/17	9/22	9/22	9/28	岩手松尾
奥 州	7/30	8/2	8/5	8/3	8/6	8/11	9/8	9/14	9/12	9/18	9/17	9/25	江刺
一 関	7/31	8/3	8/5	8/4	8/6	8/9	9/9	9/15	9/13	9/17	9/16	9/21	一関
大 船 渡	8/2	8/4	8/8	8/4	8/8	8/12	9/13	9/16	9/16	9/21	9/21	9/27	大船渡
釜 石	8/1	8/4	8/6	8/4	8/7	8/11	9/12	9/17	9/16	9/20	9/19	9/26	釜石
宮 古	8/1	8/5	8/10	8/4	8/7	8/12	9/15	9/18	9/19	9/22	9/26	9/29	山田
岩 泉	8/1	8/4	8/8	8/4	8/7	8/11	9/14	9/19	9/19	9/23	9/25	9/29	岩泉
久 慈	8/1	8/4	8/7	8/4	8/9	8/12	9/14	9/19	9/19	9/26	9/23	9/30	久慈
二 戸	7/31	8/2	8/5	8/3	8/6	8/10	9/13	9/16	9/16	9/20	9/20	9/26	二戸
軽 米	8/1	8/2	8/6	8/4	8/7	8/11	9/15	9/20	9/17	9/24	9/23	9/30	軽米
北上川上流	7/30	8/4	8/7	8/3	8/7	8/11	9/10	9/16	9/17	9/21	9/22	9/28	
北上川下流	7/31	8/3	8/6	8/4	8/7	8/11	9/11	9/16	9/16	9/20	9/20	9/25	
東 部	8/2	8/4	8/8	8/5	8/8	8/12	9/13	9/17	9/17	9/21	9/22	9/27	
北 部	8/1	8/3	8/6	8/4	8/7	8/11	9/14	9/18	9/17	9/23	9/22	9/28	
県 全 体	7/31	8/3	8/6	8/4	8/7	8/11	9/12	9/16	9/16	9/21	9/21	9/27	

- * 各地域の代表アメダス地点について、8月25日までは実測値、以降は平年値を使用して950℃到達日を予測した。
- * 出穂始期：10%出穂、出穂盛期：50%出穂、出穂終期：90%出穂した日
- * 平年は、H16～H25の10か年平均値。

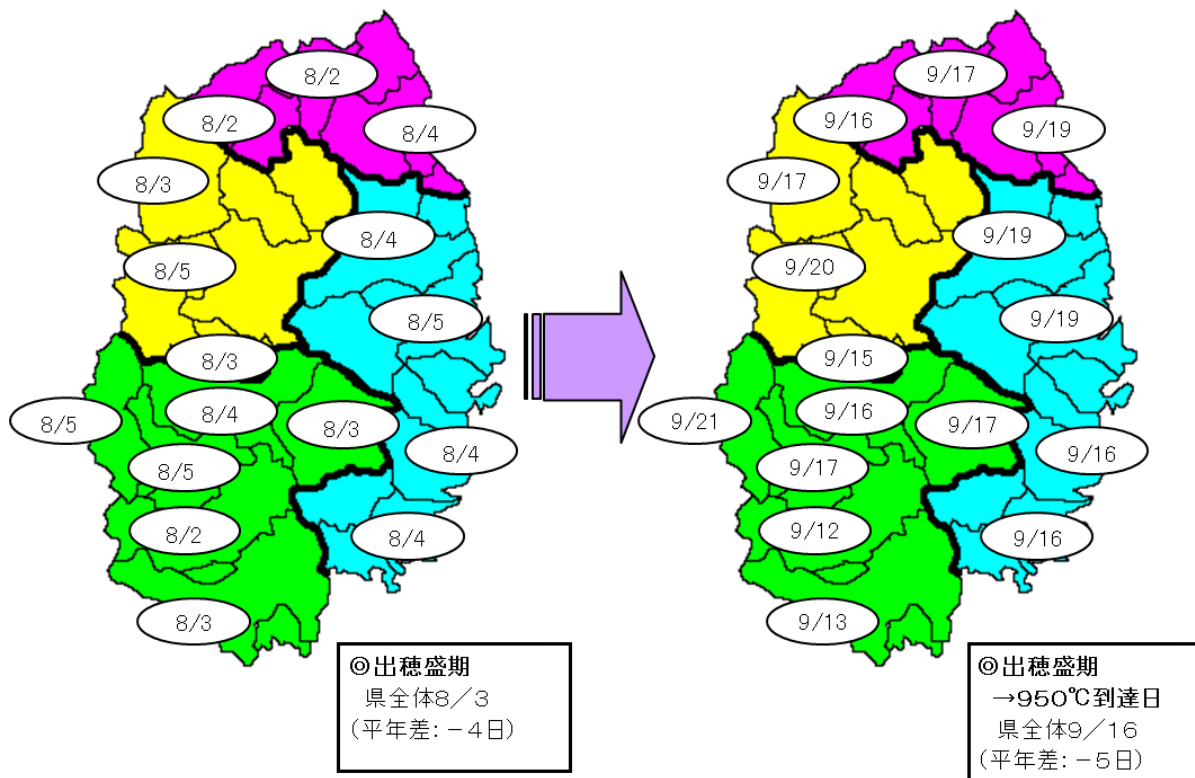


図2 各地域の出穂盛期から日平均積算気温950°C到達日(予測)

※ 各地域の代表アメダス地点の日平均気温の積算(8/25までは実測値、以降は平年値を使用)

◆刈取適期の判断

出穂からの登熟積算気温が950°Cに近づいたら、

- 粃の黄化割合を随時チェックし、
- 粃の黄化割合が80~90%となったら刈取りを行ってください。

◆刈取適期判断等の留意点

(1) 積算気温は目安にとどめる

積算気温による方法は栽培法や日照時間によりズレが生じる場合があります。

最終的には、粃の黄化割合(80~90%が黄色で、穂基部の1割程度が緑色)を基本に刈取りの判断をします。

(2) 粃水分の確認

コンバイン収穫では、作業開始前に水分計を用いて粃の水分状態が20~25%にあることを確認しましょう。

(3) 水田内で出穂のばらつきが大きい場合

1枚の圃場内でも出穂のばらつきが見られます。水口などで登熟が大幅に遅れているような場所は、刈分けして品質低下を避けてください。

(4) 倒伏した場合

台風や大雨等により倒伏した場合は刈分けを行い、土が付着した粃や青未熟粒等の混入を避けてください。

(5) テスト粃すりによる品質チェック

刈遅れると胴割米、着色粒、奇形粒等が増加し、品質が低下します。粃水分の確認とテスト粃すりを行い、刈取適期を判定してください。

5 乾燥・調製の留意点 **仕上げ水分は15.0%以下を徹底！！**

(1) 変色米の発生防止

収穫した生粳を長時間放置すると玄米が変色するので、収穫後は速やかに乾燥機に張り込みましょう。

(2) 胴割れ粒の発生防止

張り込み粳の性状（黄化粳割合）や張り込み量、水分等に注意のうえ、毎時乾減率（1時間当りの水分低下）を0.8%以下になるように、送風温度に十分に注意してください。急激な乾燥を避け、また、過乾燥にならないよう注意が必要です。

水分のバラつきを解消する方法として有効な方法が二段乾燥です。水分測定をこまめに行い、粳水分18%の時に一旦乾燥機をとめて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して粳水分の均質化を図ります。

自然乾燥は、掛け替えを行うなど乾燥促進に努め、乾燥期間は2週間以内としてください。

(3) 粳すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

粳すりは、粳を十分放冷し、玄米水分15.0%以下であることを確認してから行います。（肌ずれ米の防止）。ゴムロールのすき間は、粳の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。

脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

(4) ライスグレーダー

出荷製品となる玄米は、LL（1.9mm）の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上となるよう努めましょう。

6 異品種混入の防止

産地から出荷する米穀は「表示銘柄以外の混入のない米」であることが必須です。

現在では、DNAの解析によりコメ一粒からでも品種の判定ができます。

一旦、異品種の混入（コンタミ）が発生すると、品種名の表示ができなくなるばかりか、産地全体のイメージダウンとなります。

コンバイン、運搬機、乾燥機や粳摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年の粳等が残留している可能性があります。これらの機械や施設の点検・清掃を確実に行いましょう。また、品種が切り替わる時にもよく清掃を行い、異品種の混入を未然に防止しましょう。

7 農作業安全

収穫時期は日没が早まるので、気持ちのあせり等が生じ農作業事故の発生につながります。余裕のある作業計画とし、農作業事故防止に努めましょう。

コンバインやバインダー、ハーベスタ等収穫機械による事故を防ぐために、機械トラブルが発生した場合は、必ずエンジンを止めて対処するようにしましょう。

また、作業機に反射シールを貼るなどして交通事故防止にも努めましょう。

次号は9月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

6月1日～8月31日は 農薬危害防止運動期間です

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。